

## 平成22年度第4回理事会議事録

日 時 平成22年7月7日(水) 14:00～

場 所 日本体育協会 理事・監事室

出席者 <理事>

森会長、佐治副会長、森副会長、監物副会長、岡崎専務理事、  
泉常務理事、尾崎常務理事、板屋越、岩名、小林、斉藤、  
坂本、相良、篠宮、霜觸、竹下、竹田、田中、福島、  
山本、渡邊の各理事

<委任>

上田、神尾、常山、樋口、不老、米倉の各理事(議長に委任)

<監事>

中村監事

理事総数27名、うち出席21名、委任6名、計27名で寄附行為第32条に基づき理事会成立。

議事に先立ち、6月16日開催の第1回評議員会において、寄附行為第23条第2項第2号に定める北海道ブロック理事の変更に伴い、霜觸寛氏が新たに理事に就任したことを報告。霜觸理事より自己紹介があった。

議 案

第1号 第68回国民体育大会開催地(東京都)の決定について(泉委員長)  
第68回国民体育大会の開催地については、既に東京都に内定しており、本年は開催決定の年にあたる。

決定に先立ち、去る5月25日、本会与文部科学省により東京都の準備状況を総合的に視察した結果、開催3年前の準備状況としては順調に進んでいる。

会期については、各種競技会、気象状況等を勘案し、関係機関及び団体等と協議、調整した結果、平成25年9月28日(土)から10月8日(火)までの11日間とした。また、水泳競技の日程については、第64回大会(新潟県)以降、9月中旬までに実施することとしていることから、第68回大会(東京都)でも大会会期前に実施することで、他の競技会と併せて、今後調整をしていくこととしたい。

本件については、去る6月18日開催の国民体育大会委員会の議を経

て、文部科学省の了解を得るなど必要な手続きも終了している旨を資料に基づき説明し、第68回国民体育大会の開催地として東京都を決定したいと諮り、満場一致で承認。

決定後、森会長から東京都・佐藤副知事に開催決定書が手渡され、同副知事より謝辞が述べられた。

## 第2号 第70回国民体育大会開催地（和歌山県）の内定について

（泉委員長）

去る6月4日付にて和歌山県から、本会及び文部科学省に対して第70回国民体育大会開催申請書が提出された。

本件については、関係競技団体の視察も概ね終了し、一部競技において会場地等の調整が必要なものの、全体的には開催5年前としての準備は順調に進んでいるものと認められ、去る6月18日開催の国民体育大会委員会の議を経て、文部科学省の了解を得るなど必要な手続きも終了した。

については、第70回国民体育大会の開催地として和歌山県を内定したいと諮り、満場一致で承認。

内定後、森会長から和歌山県・仁坂知事に開催内定書が手渡され、同知事より謝辞が述べられた。

## 質疑応答

### 斉藤理事

地方では過疎化が進んでいる県もあり、観客が少なく盛り上がりには欠ける状況もある。国体の持ち回り開催について、1県ごとに開催していくことは困難になってきているのではないかと。日本体育協会も来年100周年を迎えるので、新しい国民体育大会の形を検討していただき、より多くの選手とより多くの観客のもと、スポーツの普及に取り組んでいただきたい。

### 泉委員長

国体も2巡目の中盤を迎え、国民体育大会委員会では国体のあり方検討プロジェクトを立ち上げており、ご指摘の点も含め、新しい国民体育大会に向けて検討を進めていくこととしている。また、第70回国民体育大会については、和歌山県と相談しながら、積極的なPR活動の展開を進めていただきたいと考えている。

第3号 平成23年度国及び公営競技団体等への補助金・助成金の要望について (岡崎専務理事)

平成23年度国及び公営競技団体等への補助金・助成金の要望については、現在本会の要望額を取りまとめている状況にあること、また、政府においても概算要求基準の詳細が未定であり、文部科学省と充分調整されていない状況などにより、要望額を資料として示すまでに至っていない。

従って、国庫補助金については、政府の概算要求基準の動向を見ながら、文部科学省と折衝し、要望額を取りまとめていくこととなる。

また、(財)JK A並びにスポーツ振興基金、スポーツ振興くじ等への補助金・助成金の要望については、国庫補助金要望額が固まり次第、それらを勘案して内容を固めていきたい旨を説明し、平成23年度の国及び(財)JK A並びにスポーツ振興基金、スポーツ振興くじ等への補助金・助成金の要望については、会長に一任願いたいと諮り、これを承認。

第4号 第5回日本スポーツグランプリ受賞者の決定について(尾崎部会長)

本賞は、長年にわたりスポーツを実践し、現在も継続して活動され、当該スポーツにおいて、中高年齢層の顕著な記録や実績を挙げるなど、国内外で高い評価を得た方に対して、その功績をたたえるとともに、我が国における生涯スポーツ振興の更なる醸成に資することを目的として、本年度第5回目の顕彰を実施するものである。

この度、加盟団体より15名の候補者推薦があり、去る6月25日の選考委員会において、顕彰規程第2条に定める対象に基づく3つのカテゴリーにより、候補者の功績評価について審査を行った。

審査を進めるにあたり、選考委員会では、「年齢は原則として70歳以上で、活動歴は概ね50年以上」を、審査の基礎的な基準とした。

さらに、過去4回の例にならい、選考委員会では、(1)の区分では年齢の高さと活動歴の長さ、(2)の区分では世界記録の樹立状況、(3)の区分では前人未到の高齢者記録等の達成状況を優先基準として設け、資料記載の9名の候補者を選考した旨を説明。結果、選考した候補者9名を受賞者として承認した。

なお、表彰式は9月25日、第65回国民体育大会の役員懇談会において実施することを報告。

第5号 公益財団法人移行後、最初の評議員候補者について(岡崎専務理事)

はじめに、公益財団法人移行後、最初の評議員のうち、学識経験評議

員について、候補者の一人としていた日本中学校体育連盟会長に新藤久典氏が就任したことにより、同氏を学識経験評議員候補者として、評議員選定委員会に推薦したい旨を説明。

次に、加盟団体からの評議員については、評議員選定委員会において、104名が選任された。この内、「新公益法人としての理事に選任された団体からの候補者」19名、「これまで評議員候補者が推薦されていなかった加盟団体からの候補者」1名、「加盟団体の役員改選により当初の評議員を変更しなければならない団体からの候補者」2名の計22名について、各加盟団体から候補者の推薦を得た後、各評議員に対し、文書により評議員候補者の推薦について承認を得たい旨を説明。

以上、「学識経験評議員候補者として日本中学校体育連盟会長、新藤久典氏を学識経験評議員として評議員選定委員会に推薦すること」、また、「加盟団体からの評議員候補者を、評議員選定委員会に推薦する旨の了承を得るため、評議員に対して文書提案をすること」について諮り、審議の結果、これを承認。

第6号 参与の委嘱について (森会長)

参与については、寄附行為第30条第6項により、理事を退任された、松田光皖氏、御手洗富士夫氏の2名を委嘱したい旨を諮り、これを承認。

報告事項

1. 国際交流事業関係 (渡邊委員長)

- ・2010年日中成人スポーツ交流事業(受入)の終了について

第4回目となる日中成人スポーツ交流事業は、去る6月27日(日)から7月2日(金)までの6日間、テニス、卓球、バドミントン、ボウリングの4競技に、福建省を中心に編成された総勢59名の中国選手団を受入れ、釧路市内を中心に北海道内の各会場で競技会を実施した旨を、資料に基づき報告。

その他 (岡崎専務理事)

- ・「創立100周年記念事業 シンポジウムへの参加者募集」について

平成22年度第1回及び第2回理事会において、シンポジウムの開催について報告していたが、去る6月22日にシンポジウムの開催要項を加盟団体宛に発送し、関係者への周知の依頼をしたことと併せ、今月中に正式なシンポジウムの参加者募集を行う旨を報告し、参加者募集にあたっての理事各位の協力を依頼。

- ・「創立100周年記念事業 絵画・作文コンクール 作品集」について  
本会独自の記念事業として昨年度実施した「絵画・作文コンクール」において、入選した作品を掲載した「入選作品集」が完成した旨を報告。
- ・会議日程について  
次回第5回理事会を9月8日（水）14時から開催する旨を報告。

以上の諸報告をいずれも了承した。

議事終了後、（財）ミズノスポーツ振興財団会長の水野正人氏から本会に対する寄付金の贈呈が行われ、15時10分閉会。